

OKINAWA PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



沖縄県立看護大学広報誌

かせかけ

2019
VOL.31

CONTENTS

- 02 開学20周年記念
- 06 入学式
- 08 新入生オリエンテーション
- 10 オープンキャンパス
- 12 国際交流
- 14 看大祭
- 16 卒業式
- 18 のぞいてみよう!看護大学
- 20 サークル紹介
- 22 地域貢献だより



開学20周年という節目にあたり、看護大学の未来への飛躍に向けて関係者や卒業生や在学生とともに、記念式典、講演会、交流会を行いました。



記念講演会「^{わらび}童（わらび）^{たから}どう宝～赤ちゃんから始める生活習慣病予防で、沖縄の健康長寿社会復活へ～」

沖縄県立中部病院・ハワイ大学卒業後医学臨床研修事業団ディレクター 安次嶺 馨 氏



特別講演
「大学・大学院教育の充実『グローバル化』の視点から」
沖縄県立看護大学初代学長・名誉教授 上田 礼子 氏

「開学20周年を迎えて」

沖縄県立看護大学 学長 嘉手苺 英子

今年度（2018年）、本学は開学20周年を迎えました。

開学時、看護学部だけで出発しましたが、現在は大学院博士前期課程・後期課程および別科助産専攻が設置されています。看護師、保健師、助産師、専門看護師、看護管理者、看護教育・研修者など、看護分野の多様な人材を育成する看護系大学として成長してきました。これまでに、卒業生約1200名、大学院修了生約100名、別科助産専攻修了生約190名を輩出しており、県内外の様々な場で人々の健康を支える担い手として活躍しています。

去る9月15日（土）に、開学20年間記念事業として、特別講演や記念講演会、卒業生・修了生によるシンポジウムなどを行いました。本学にゆかりのある多くの方々に出席いただき、これまでの20年を振り返ると共に本学への期待と励ましを頂き、県立看護大学の役割を改めて認識しました。



准教授 山口 賢一

本学の開学20周年記念の関連事業として、9月14日、ハワイ大学・KCC (カウアイ・コミュニティ・カレッジ) との交流会を開催しました。午前の部には、本学とハワイ大学との学術交流協定締結にご尽力されたデービッド・イハ先生と比嘉良充先生、本学との交流発展に多大な貢献をされてきたKCCのシャー・オノ先生とブライアン・ヤマモト先生をゲストにお招きして講演会を行いました。平日開催にも係わらず本学卒業生の参加もあり、世代を越えた参加者による活発な意見交換の場にもなりました。



卒業生 新城 潤

久しぶりに再会したオノ先生とブライアン先生は、当時と変わらない笑顔で私を迎えてくれました。2人に再会した時に、オノ先生と将来の看護師像について話した事、たわいもない会話で笑いあった事、ブライアン先生が本当のお父さんの様にたくさんの事を教えてくれた事を思い出しました。ハワイ研修に参加して、素敵な出会いに恵まれたことに本当に感謝しています。書きながら思い出して思わず笑みがこぼれ、とても暖かい気持ちになっています。





卒業生によるシンポジウムとゆんたくテーブルを開催し、「いまのあなたを支えている出会い」をふまえて、後輩へのメッセージを伺いました。



県立南部医療センター勤務 2期生 諸見謝 真

大学を卒業後、県立病院で勤めています。看護師14年目で4か所の病院を回り、小児から成人、高齢者の患者さんと関わる機会を得る事ができ、看護師として幅広く見る事ができてきました。現在は、働きながら大学院に通い、自らの看護を深めている最中です。現在に至るまでたくさんの患者さんや上司、先輩、後輩との出会いが今の自分の支えとなっています。医療現場も人工知能AIの存在が欠かせなくなる時代になってきましたが、人と人との出AI（出会い）を大切に、人としてどう生きていくかを考えながら人間力を高めていきたいと思っています。



県立南部医療センター勤務 2期生 富山 鈴華

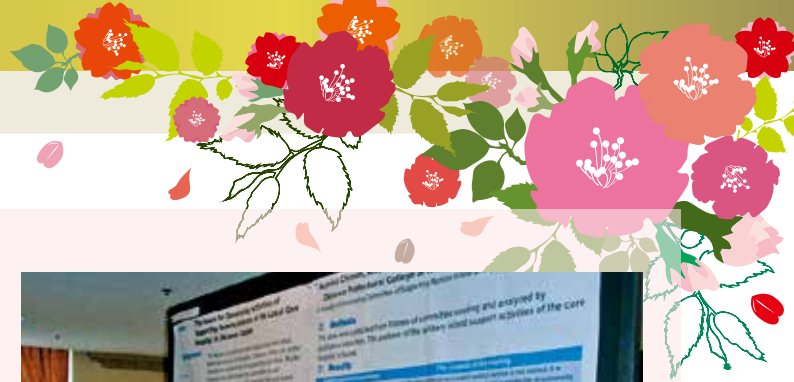
私は「人の役に立つ仕事がしたい」との思いで看護師を目指しました。病院勤務ののち、離島診療所勤務では患者さんの健康問題と生活が繋がっていることを病院にいる時よりも深く学びました。同じ病気でも人それぞれで、その人に合った関わりをする事で患者が楽になる姿を見て自分も役に立てた、看護はおもしろいと感じました。現在は病院勤務に戻り、健康・生活・個別性をセットで考え退院後の生活を見据えたケアにつなげようと取り組んでいます。



久米島町議会議員 1期生 吉永 浩

私は、久米島町議会議員をしています。卒業後、保健師12年の経験から今に至っており、その基礎は看護大学の4年間に作られました。今の私を支えているものは、これまでの経過における人・物・事の良いも悪いも全てだと思っています。そして、これからもたくさんの出会いが私を支えてくれる糧となるでしょう。一所懸命動いているうちに、自分にしかできないことが見えてくるはず。今、振り返るとそう思えてならないのです





沖縄県立看護大学勤務 1期生 知念 久美子

開学20周年記念に参加するにあたり、久しぶりに学生生活のことを思い返してみました。学生時代は、講義や演習、実習と4年間必死でした。でも、看護の経験が豊富な教員や実習先の指導者、多くの仲間とのディスカッションがとても楽しく、早く臨床で働きたいと思っていました。看護は人と向き合う仕事。人との出会いを大切に、仲間と学び会える学生生活を送ってみたいと思っています。



琉球大学保健学科勤務 1期生 高原 美鈴

私は看護学生時代学業に苦しみ、看護師時代では、大学病院で精神科看護との格闘(葛藤)の毎日でした。学生・看護師・大学教員どの時代でも、その時の先生方や同僚など常に周囲の人たちに助けられてきました。現在、大学教員として実習引率をしていると、卒業生が「先生、元気?」と、声をかけてくれることが嬉しく喜びを感じています。私は学生の声を聴き、寄り添うことを大切にしてきました。そうした姿勢が時を経て私自身に返ってきているのだと感じています。

東邦大学健康科学部勤務 2期生 上地 賢

看護上の“やりとり”を通して、私たちは単に与えるだけでなく、多くのものを受け取る存在でもあり得ます。私たちが何らかを“受け取った”際に起こる心情の自覚は、きっと他者に向ける目の変化を生むはず。アメリカの作家 John Irvingは、「作家であるためには、注意深い“観察”と同時に、見る機会を得ることがなかった真実を注意深く“想像”することが求められる」と述べています。おそらく、これは看護職にも当てはまります。豊かな“想像”のためには、内面の充実が欠かせません。人生の突然の変化に対応するために、“受け取ったもの”を自覚できるために、この大学での生活が「必要であった」と言える充実したものになることを願っています。



2018年入学式

ようこそ 看護大学へ!!



新入生への歓迎の言葉

2年次 安仁屋 佳奈

2年生は専門科目が増え、理解することや覚えることが多くなりますが、友人と一緒に勉強することで楽しみながら学ぶことができます。沖縄県立看護大学は、グループ学習が多く、様々な人と関わることで色々な考え方を共有でき、看護職者になる上で有意義な学生生活を送れると思います。後期からは実習が始まります。とても不安ですが、先輩からのアドバイスや同級生と切磋琢磨することで自信につながると思います。

3年次 道下 博貴

私は学生会の会長を務めていました。学生会活動を行っていくうえで、時には苦しくつらいこともたくさん経験してきましたが、同級生や先生、先輩や後輩に支えていただき困難を乗り越えてきました。この経験は私の人生の中で大きな糧となると確信しています。本大学は規模は小さいですが、その分人との繋がりを密に持つことができます。この大学で私は沢山の素敵な出会いを持つことができました。これから共に頑張っていきましょう。



新入生の声



看護学部 新入生 玉那覇 美空

大学では多くの課題や実習、勉強などが大変だと感じました。でも、同じ志を持つ仲間と支え合ったり、手厚いサポートをしてくれる先生方のおかげで、大学生活は大変な中にも楽しさを見出せています。理想とする看護師になるために、看護の知識や技術をしっかり習得すること。そして、「どんなことにも挑戦する」をモットーに、様々な経験を積み重ねることを目標としながらこれからの4年間を過ごしたいです。

別科助産専攻 新入生 吉田 佳乃子

沖縄県の母子保健に貢献したいという想いを胸に、別科助産専攻に入学しました。入学から約半年間は講義やグループワーク、課題の日々でしたが、同じ夢を持つ仲間と共に切磋琢磨し、刺激的な毎日過ごすことが出来ました。助産実習では、資格のない私達に大切に育ててきた我が子の誕生を託してくれた妊産褥婦さん達。一人の生命がこの世に誕生する瞬間に立ち会える感動と共に、母子の命を預かる責任の重さを痛感しました。出会った妊産褥婦さんからのメッセージ「これからも妊婦と赤ちゃん達をたくさん幸せにしてあげてください」を胸に刻み、この1年間に会った母子と家族、実習指導者の皆さま、教員、そして激動の日々を支えてくれた家族・友人への感謝の気持ちを忘れず、対象に寄り添える助産師を目指します。



(写真右:本人)

4年次 長嶺 桃子

4年間はあっという間でした。1年生は学校になれること、2年生は実習に慣れることで精一杯でした。3年生になると実習だけでなくテストや課題も難しくなり、4年生になるとよいよ、就職活動や国家試験勉強でさらに負担も大きくなります。そんな忙しい中でも、同じ夢を目指す仲間や、同じ道を辿ってきた先輩方と共に、大変なときはお互いに支え合い、息抜きには球技大会などを行なったりと単科大学の良さを感じながら充実した4年間を過ごすことができました。

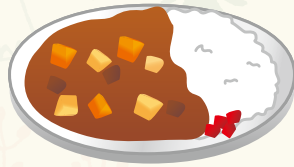


新入生 宿泊オリエンテーション



新入生、先輩学生、教員が共同作業を通して、 お互いの絆を深めるオリエンテーション

今年は、うるま市石川青少年自然の家で行われ、
ハイキングや野外炊飯カレーライスづくりに挑戦しました。



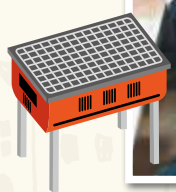
1年次 伊佐 真理江

新入生の交流を目的に行われる宿泊研修会は、みんなと仲良くなれる絶好の機会です。登山やウォークラリーで汗を流し、寝食を共にすることでお互いの普段見ることのない一面を発見できます。新しい友達やまだお話したことのない人とも距離が縮まったのではないのでしょうか。そして、先生方や先輩など1年生をサポートしてくれる方は周りに大勢います。今後の学校生活の楽しみ方を聞いてみるのもいいかもしれません。これから4年間、チームワークを大切に一緒に頑張っていこうと思いました。



1年次 佐藤 龍也

沖縄県立看護大学に入学した私たちが待っていたのは宿泊研修です。初めは登山とクイズラリーに分かれて、登山とクイズラリーを楽しみます。その後は皆でおいしいカレーを作って食べます。緊張しますが、先輩方が楽しませてくれるのでそれに乗って楽しむことができますと思います。入学早々すぎて会う同期の人も会う先輩方もやさしいので人見知りを発揮しなければ、楽しい思い出をつくれます！新入生の皆さん待ってまーす！



OPEN CAMPUS 2018

「沖縄県立看護大学で 自分の未来を体験しよう!」

高校生を中心として、毎年大勢の学生さんが看護大学のオープンキャンパスを訪れます。フリートーク、看護体験、展示などで、在学生在がホストとなり、大学の魅力を伝えます。



「在在生とのフリートーク」

大学広報委員会 下中 壽美



平成30年7月28日、オープンキャンパスが開催されました。毎年7月に教員と在在生が一丸となって、大学での学びを紹介しています。今回は、台風の影響で1週間延期されたにも関わらず350名ほどの来校者がありました。毎年好評なのは、大学の授業、看護の実習、サークル活動などについて、在在生に直接聞くことができる「在在生とのフリートーク」です。来校者のアンケート結果より「とてもためになった」「学校の特徴や良さを在在生とのフリートークを通していっそう強く感じられた」という声があります。ぜひ一度足を運んで、大学の雰囲気を楽しんで下さい。



「Love&命の誕生」

4年次 江崎 夢芽

「Love&命の誕生」のブースでは、赤ちゃんのおなかの中での様子や、どのように骨盤を通して赤ちゃんが出てくるのかの説明を行い、その後、お産の介助の様子を見学してもらいました。お産のことはなんとなく知っていることも多いと思いますが、実際に赤ちゃんが出てくる時の動きや、お産の介助の様子など普段はあまり見ることはできない部分を見てもらったのかなと思います。まだ練習段階の私たちのお産の介助を真剣に見て、たくさん質問もしてもらえてとてもうれしかったです。



「健康への第一歩 ～セルフチェックで生活習慣病を予防しよう!～」

4年次 山川 直豊

「健康への第一歩～セルフチェックで生活習慣病を予防しよう!～」のブースでは体重や身長、脂肪量、筋骨格量を計測し、それぞれの数値について説明や沖縄県の生活習慣病の現状についての説明をしました。自分の身体の状態を数値化する体験は珍しかったようで参加者が興味を持って数字の説明や生活習慣病についての説明を聞いてくれました。普段の生活習慣が自分の身体を作りその積み重ねが生活習慣病に繋がっていく事を理解してくれて嬉しく思いました。

「赤ちゃん教室へようこそ」

3年次 宮城 奈々海

私は、「赤ちゃん教室へようこそ」のボランティアに参加しました。このブースでは赤ちゃんの心拍数や呼吸数の数え方を教えたり、おむつ交換の体験などもしてもらいました。高校生のほとんどは初めての体験とのことでしたが、戸惑いながらも積極的に聴診器を使ってくれたり、おむつ交換をしてくれたので教える側も楽しかったです。この体験を通して看護にもっと興味を持ってもらえたと思います。気軽に話せる雰囲気なので、ぜひ参加してみてください。



「世界に羽ばたけ!国際保健看護」

4年次 崎山 華奈衣

「世界に羽ばたけ!国際保健看護」では、外国の医療・保健について紹介しました。参加者からは「こんな国があるんだ」などの声が聞かれ、日本とは異なる生活習慣や食習慣、宗教などから生じる健康課題に興味津々な様子でした。自分たちが住んでいる地域に関心を持つことは大切ですが、他の地域にも関心を広げることは、多様な視点から物事を捉える力につながります。参加者の姿勢から、私も改めてそのことの大切さを学びました。



国際交流

海外研修セミナー (ハワイ2018)

3年次 長嶺 有真

夏季休業中にハワイのカウアイ島とオアフ島で約3週間の研修を行いました。現地の大学での講義や医療施設見学など日本とアメリカの医療の違いを学びました。また、フラやロミロミマッサージ、ウクレレ、ハワイ語学習、ホームステイなどを通してハワイの人々の温かさや異文化に触れることができました。特に実際の病室やICUなどを再現したシミュレーションセンターでリアルなマネキンを使った実技は印象深かったです！実際の症状が現れたりするので、看護師としての技術向上に繋がると感じました。このような異文化を体験することで、ハワイと沖縄双方の良さに気づくことができました。国際的な視点や語学力向上など、ハワイ研修だからこそ経験できる、今後の学生生活に良い刺激となった研修だったと思います！



3年次 金城 知慧

初めまして！3年次の金城知慧です。私がかせかけを読んでくださっている皆さんに伝えたいのは「たくさんの方がハワイ研修に参加してほしい！」ということです。ハワイ研修では、実際にハワイの医療施設を見学できたり、ハワイの医療事情や看護について授業を受けたり、海外の医療に触れる機会がたくさんあります。私はその経験を通して、今まで考えたこともなかったけど、海外でも働いてみたいと思うようになりました。これは研修に参加した人しか経験できないことだと思います。なので、海外で働くことに興味がある人やそうじゃない人もぜひハワイ研修に参加して自分の視野を大きく広げてみませんか？ハワイ研修はそれが叶う絶好の機会だと思います！

異国の人々、文化とのふれ合いはかけがえない学びの場であり、
国際交流室運営委員会が中心となって、本学では様々な国際交流イベントが行われています

海外で活躍するウチナンチュ・ナースとのスカイプ中継による交流会



国際交流室運営委員会 當間 紀子・栗原 幸子

9月に開催された看大祭において、海外で働いている沖縄県出身の看護職者3名とスカイプ中継を行い、在校生や看大祭の来場者と交流する企画が行われました。ゲストスピーカーの3名は、2016年に本学で開催された、第1回世界のウチナンチュ・ナースディにおいて、講演やゆんたくテーブルを担当して下さった方々でした。当日は、ハワイ研修に参加した学部学生、同窓会の先輩、別科助産専攻の学生、教員の参加がありました。会場から積極的な質問があり、活発な交流会となりました。今後もさらに多くのウチナンチュ・ナースとの交流ができるように企画していきたいと思います。

別科助産専攻 田川 美樹

私はもともと国際看護や世界の医療事情に興味があり、それらについて自分自身で調べたりすることもありました。今回の交流会で、アメリカで活躍されるウチナンチュ・ナースの方々にお話を聞いたり、質問したりする機会を通して、本やインターネットだけでは知ることの出来ない多くの生きた情報を得ることができました。また、日本とアメリカの看護師の働き方やシステムの違いなども知ることができ、世界で働く看護職の役割に目を向け、視野を広げることができました。スカイプという文明の力を活用した、大変有意義な交流会であったと感じます。今後の自身のキャリアアップの参考にもしていきたいと思います。



Greatest Festival

Come on Baby!



第20回 看大祭



学生が主役となり、看大祭の企画運営を行います。看大祭ならではの看護系出店、お化け屋敷、演奏会、飲食ブースまで、毎年様々な趣向を凝らした出し物があります。



看大祭実行委員長 2年次 我那覇 命

9月8日、9日に第20回看大祭を開催しました。毎年、学生が主体となって開催しており、今年は高校生ダンス部、地域のダンスチーム、お笑い芸人、エイサー団体など例年よりも多くの団体の協力を得て看大祭を盛り上げていきました。また、出店も数多くあり、日頃の講義や演習などで培った看護技術を行う看護系出店、各分野の看護紹介、サークルメンバーでの出店、お化け屋敷などが今年も開かれました。第20回目は生憎の雨模様にも関わらず、新しく挑戦した高校生などの外部出演の効果もあり、例年とは一味違った盛り上がりを見せました。

2年次 上原 海斗

今年は看大祭の運営とサークルでの出店に携わりました。運営では上手くいかない点もあったが実行委員長をはじめ多くの学生のサポートを得て看大祭を行う事ができました。サークルでの出店ではたこ焼きを作って販売をしました。その中で、学年分け隔てなく、一緒に盛り上がりながら、空き時間では大学生活での有益な情報共有などを行っていました。来てくださった来場者の方々とコミュニケーションをとる事ができ、有意義な時間を過ごすことのできる看大祭となりました。



後夜祭実行委員 2年次 清水 一正

今年の後夜祭では、軽音サークルでのバンドを始め、ダンスや劇、コントなどが披露されました。準備を1ヶ月以上前から始めている出演者もあり、綿密に話し合い、リハーサルを行い、ベストな状態で披露が行えるよう努力しました。本番では、全学年が一緒となって感動し、笑い合いながら盛り上がっていました。普段関わりのない学年との交流という面においても有意義な時間となったのではないかと思います。



2年次 大城 稜香

看大祭では親しい友達と一緒に出店しました。事前の準備も友達と計画しながら楽しく行う事ができました。出店するにあたり、来場者も楽しめるようにとテントに飾りつけなどを行い、また、写真を撮るためのブースも設置しました。そのため、来場者や他学年と交流する場となり、普段は接点がなく知ることの出来ない情報や、地域の方々との意見交換を行う事ができ、とても充実した大学祭となりました。





2017年度卒業式

看護師、保健師、助産師を目指して学び深めた
学生生活の感想を卒業生に聞いてみました。

平成29年度 沖縄県立看護大学 卒業式・修了式



「先生方と仲間と乗り越えた1年」

別科助産専攻 卒業生 與那嶺 百音

私は看護学部での周産期保護看護実習で助産師の仕事に感銘を受け、別科助産専攻へ進学しました。別科での1年は講義、演習、実習と想像以上にハードな日々でしたが、先生方や実習先の助産師の手厚い指導と支援があり、教科書だけでは分からない多くのことを学びました。また同じ志を持つ同期の仲間と支え合い、教え合い、とても充実した学生生活でした。社会人になった今、別科での学びと出会いは助産師としての自信や誇りにつながっています。





看護学部 卒業生 東門 奈津美

看護大学での4年間はとても充実しており楽しかった事も苦しいこともありましたが、助産師になりたいという強い気持ちを持ち、同じ目標を持つ仲間とともに過ごして来ました。大学生活で印象に残っているのは実習です。学年が上がるにつれて勉強する内容も増えていきますが、仲間とともに勉強したり先生方から助言をもらいながら乗り越えて来ました。様々な患者様と出会い、私がイメージする看護師とは、助産師とはどういったことか考えることができました。

この沖縄県立看護大学で素晴らしい仲間と先生方に囲まれながら学生生活をすごしてほしいと思います。



看護学部 卒業生 國吉 美貴

私は3月に沖縄県立看護大学を卒業しました。大学では看大祭や球技大会など学生主体の行事やハワイ研修などのイベントも多く、仲間たちと楽しく充実した学生生活を過ごすことができました。学年が上がるにつれて実習や課題のレベルも高くなり、初めての就職活動や国家試験など心が折れそうになる時もたくさんありましたが、先生方に励まされ、ともに頑張っている友人たちと支えあって乗り越えることができました。最期の学生生活をここで過ごすことができ本当に良かったです。



のぞいてみよう!看護大学

看護系専門科目の中に埋もれがちな存在ですが、本学の教養科目はバラエティーに富み、魅力的な内容も盛りだくさんです。今回は、生物学の大城安弘先生をゲストにお迎えし、生物（主に蝶）についてお話しいただきました。教養科目を教える先生の哲学の一端をお伝えできればと思います。



ゲスト

大城安弘先生
(生物学担当)



インタビュアー

山口賢一
(社会学・英語担当)



ゲスト略歴

出身は沖縄県の石垣。農業を営む家庭に生まれ育ち、(ご本人曰く)「家業の手伝いをしないでコオロギやバッタを追っていた」少年時代を過ごす。昆虫が大好きで、琉球大学農学部、鹿児島大学農学研究科修士課程で昆虫学を学ぶ。現在は県内の大学と専門学校で生物学、昆虫学、環境学を教える。「沖縄県の蝶制定県民の会」会長、「首里城下にチョウを翔ばそう会」会長。

ポイント1 看護学生に合わせた授業

——本学で生物学を教えられるにあたり、工夫されていることは

看護学生用の教科書(植物の内容が少ない)を選んで、人体と関わる項目(動物)を中心に教えています。人も生物の一員であり、他の動物を観察・実験することで、人をも理解することができます。人に接する看護師にとって、人間学の手前にある生物学は大切です。

ポイント2 蝶が棲息できる環境づくり

——本学キャンパスで「チョウの食草植栽」というユニークな試みをされています

日本には250種ほどの蝶がいますが、そのうちの6割、

150種ほどが沖縄に棲息していて、沖縄にいる8割が熱帯の蝶です。この多様性は観光資源にもなります。「首里城下にチョウを翔ばそう会」の活動を始めて18年目になりま



オオゴマダラのサナギ



「チョウの食草植栽」参加者

すが、看護大学の構内でも蝶が見られたら心が安らぎますよね。今年は裏庭にオオゴマダラの幼虫の食草を植えています。

ポイント3 「沖縄＝バタフライアイランド」構想

オオゴマダラは寿命が長く、飛び方ものんびりしています。また、人懐っこく、香水等や人の汗のにおいに寄ってくる、「いちやりばちよーでー」な蝶で、ウチナンチュにそっくりです。よくぞ沖縄に来てくれた、と思っています。那覇市の新庁舎の落成式では、くす玉の中に紙吹雪ではなくオオゴマダラを入れていました。オオゴマダラは日本一大きな蝶で、学名に「イデア(思想・希望)」「リュウキュウエンシス(琉球に生息する)」という言葉を含みます。くす玉の中に入れるのは、「日本一大きな希望を抱いて、沖縄の地から世界にはばたこう」という意味があります。

蝶は小動物の代表とも言える存在で、「蝶の楽園は人の楽園」でもあります。沖縄県を「バタフライアイランド」にしたいのですが「首里城下にチョウを翔ばそう会」だけでは

力不足です。県民皆様のご協力をいただいて、蝶が生息できる環境を整えたいと思います。

ポイント4 生物学で「命どう宝」を学ぶ

——蝶を通して本学の学生に伝えたいことは

生物学の講義の一部として、学生には蝶の飼育もさせています。小さな命に接することで、「命どう宝」の精神を学んでもらえればと思います。これは人の命を扱う看護師となった時にも役に立つ学びだと思っています。

インタビュー後記

蝶への想いを語られる柔和な表情がとても印象的でした。インタビュー中に「看護大学の表の庭にも蝶の食草を植えたいと必ず記事に載せて欲しい」とのご要望がありました。まずは身近なバタフライキャンパス活動から、皆さんもバタフライアイランドづくりに参加してみませんか。



サークル紹介

地域密着型ボランティアから国際イベントまで、看護大学では多様なサークル活動が行われています。



性・命の達人 キラリサークル 新垣 杏樹

こんにちは！性・命の達人キラリサークルのサークル長の新垣杏樹です。キラリサークルとは、性や女性の体の仕組み、出産などに興味のある学生が集まって、生命の誕生に関わる妊娠から出産までの様々なイベントについて互いに知識を深め合うサークルです。主に、行事ごとに展示や妊婦体験、沐浴体験（赤ちゃんのお風呂）を実施しています。ちなみに今年（2018年）は、他大学への出店やチャリティ活動への参加など、学外での活動も行なっています。助産師を目指す学生も多く所属していますので、興味のある学生は是非！



アジア保健医療研究会 照喜名 藍寧

アジア保健医療研究会（アジ保）では、「将来、看護師として海外で活躍したい！」「国際協力に興味がある！」「海外に行ってみたい！」という学生たちが活動しています。普段は英会話レッスンや海外の文化や医療現状を学ぶ勉強会、時には、実際に海外で保健活動の経験があるゲストを招いて講和会を行っています。そしてアジ保のいちばん大きなイベントは海外研修です。昨年度は、タイ/ミャンマーの国境付近へ赴き、国境に住んでいる移民・難民を取り巻く現状や医療を自分の目で確かめることができました。また、そこでボランティア看護師として活躍している日本人のお話を聞き、大学で学んでいる知識や技術が海外でどう活かされるのか考えることができました。

あなたもアジ保の活動を通して海外で働く自分をイメージしてみませんか？





茶道サークル

當山 友希

私たち茶道サークルは、1年次から4年次まで、時間が合う日に週1回程度集まり、茶道に必要な作法の練習をして、ゆったり抹茶を飲みながら楽しく活動しています。

私たちが特に力を入れているのは、看大祭でのお茶席の出店、ハワイからの留学生との交流会です。その中で、お点前を披露したり、お茶のたて方を教えたり、一般の方々や外国の方々との交流もできます。また、夏休みなど長期休暇を利用して、外部の茶道の先生にご指導いただきました。

本学に入学後、みなさんと一緒に活動できることを楽しみにしています。

三線サークル

仲田 梓乃

こんにちは、三線サークルのサークル長、仲田です！三線サークルでは、メインイベントの看大祭での演奏や、ハワイ学生との交流会で演奏し沖縄の文化にふれてもらうなどといった活動をしています。

三線が大好きで大学でも活動したい！というメンバーや、初めてだけど三線にふれてみたい！というメンバーも多くいて、弾き方や工工四（くんくんしー：楽譜）の読み方を教え合いながら和気あいあいと楽しく練習をしています。



軽音サークル

大橋 りか

みなさんこんにちは！軽音サークルです。

軽音サークルでは、18名の部員が楽器経験の有無にかかわらず、みんなで仲良く楽しく活動しています。主な活動は、5月の新入生歓迎ライブ、9月に行われる看大祭の後夜祭でのライブ、3月に行われる卒業式での卒業ライブです。他にも、定期的に校内の食堂「エンジェル」でミニライブを行っています。バンドは先輩後輩関係なく組むので、他学年の人とも交流でき、仲良くなるきっかけにもなります。このメッセージや写真を見て少しでも興味が沸いた人は、ぜひサークル室に足を運んでみてください。どなたでも大歓迎です！

地域貢献だより

多くの在学生在が課外のボランティア活動を通して地域に貢献しています

第1回那覇市消防団祭り 沖縄県立看護大学ブース



地域協働連携センター 知念 真樹

本学では、学生が地域のボランティアに積極的に参加しています。各イベントでは、子ども達や障害を持った方、高齢者へのサポーターとしての支援や、講義で学んだ看護技術を活かし、血圧測定等を行っています。ボランティア活動に参加する学生にとっては、講義での学習を理解へつなげる助けとなっています。また、学校として、与儀小学校区まちづくり協議会へ委員としての参加、那覇市健康づくり協議会へ協力団体として参加する等の地域協働連携も行っています。



よぎっ子まつり



2019年度 行事予定

- | | | | |
|----|---------------|------|------------|
| 4月 | 入学式
前期授業開始 | 10月 | 後期授業開始 |
| 5月 | 開学記念日 | 11月 | 特別選抜入試 |
| 7月 | オープンキャンパス | 1月 | 大学入試センター試験 |
| 8月 | ハワイ研修 | 2・3月 | 一般選抜入試 |
| 9月 | 大学院入試
看大祭 | 3月 | 卒業式・修了式 |

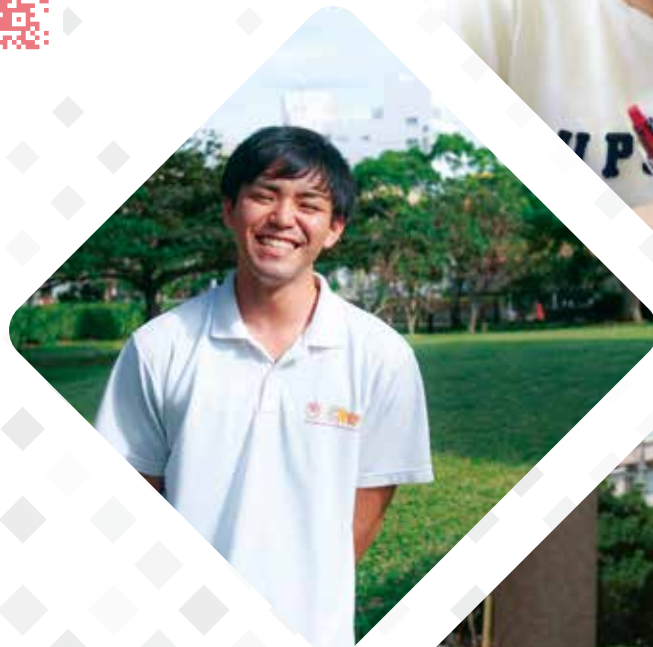
「かせかけ」とは

総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具。この道具を使って織物用の糸を巻いていく様子を「かせかけ」と言います。愛する人を想って糸を巻く、そのような情景を描いた踊りは、琉球古典舞踊「七踊り」の一つにも数えられています。大切な思いを丹念に紡ぎ、そして形にしていくなかで「かせかけ」のテーマは、学びを重ねながら成長する学生たちの大学生活にも通ずる部分がありそうです。広報誌「かせかけ」では、そのような学びの一コマ一コマを取り上げてお伝えします。





\ 360度 VR体験!! /



沖縄県立看護大学

〒902-8513 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098) 833-8800 (代表)
FAX (098) 833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

編集：沖縄県立看護大学／大学広報委員会
発行：2019 (平成31年) 3月